

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 8. 総合研究大学院大学

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009842">http://hdl.handle.net/10502/00009842</a>

# 8 総合研究大学院大学

国立民族学博物館（民博）には、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。民博に基盤をおく2専攻は、長期のフィールドワークで得られた資料に基づき博士論文を作成することを目的とし、個別の教員による授業や研究指導と、複数の教員の指導のもとに行われる共通のゼミナールを通して、広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしている。

本年度の地域文化学専攻長は樫永真佐夫、比較文化学専攻長は鈴木 紀が務めた。

## ●葉山キャンパス・文化科学研究科の動き

2020年度、総研大は設立32周年を迎え、国立大学法人化17年目を迎えた。

文化科学研究科においては、かねてより連携強化が図られ、2005年度から文部科学省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」事業として専攻を横断して「総合日本文化研究実践教育プログラム」が2ヵ年実施された後、2007年度より「文化科学研究科連携事業」が始まり、民博に基盤を置く2専攻もこれに参加してきた。2020年度は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』第17号が刊行され、地域文化学専攻在籍生の論文1本、研究ノート1本、資料紹介1本が掲載された。また、「総研大文化フォーラム2020 文化のレジリエンスとは？——〈異〉をつなぎ、未来へ」を2020年12月5日、12月6日に国際日本文化研究センター（京都市）およびWebにて開催し、地域文化学専攻の1年次生2名、比較文化学専攻の1年次生1名が学生企画委員として、その企画立案から準備・運営全般に携わった。さらに「学術資料マネジメント教育プログラム」として、文化科学研究科の各基盤機関が所蔵する学術資料を活用し、高度な知識と技術の習得ができる授業が開講されており、本年度は地域文化学専攻の川瀬 慈准教授による「映像話法の理論と実践」、園田直子教授による「資料保存学」が開講された。

第70回教授会（2020年9月18日）において地域文化学専攻から1名の課程博士が承認された。第71回教授会（2021年2月26日）において比較文化学専攻から2名の課程博士、地域文化学専攻から1名の論文博士が承認された。

## ●教員の異動

島村一平准教授が、2020年4月1日付で地域文化学専攻担当になった。同じく4月1日付で、福岡正太が教授に昇任した。

鈴木英明准教授が、2020年10月1日付で地域文化学専攻担当、岡田恵美准教授が、2020年10月1日付で比較文化学専攻担当になった。

出口正之教授は民博定年退職に伴い、2021年3月31日付で総研大教員の併任解除となった。

## ●学位の授与

### 【課程博士】

今井彬暁（地域）『ベトナムのモンの二元論における諸存在の制作と構成——「常世」と「現世」の関係に着目して』  
〔文学〕

〔審査委員〕 樫永真佐夫、韓 敏、信田敏宏、  
中田友子（神戸市外国語大学国際関係学科 教授）、  
横山廣子（総合研究大学院大学・国立民族学博物館 名誉教授）

八木風輝（比較）“*Formation of Music of Kazakh Diaspora in Mongolia: A Case Study of the Musical Practices of Professional Performers*”〔文学〕

〔審査委員〕 島村一平、岡田恵美、福岡正太、  
坂井弘紀（和光大学表現学部総合文化学科 教授）、  
寺田吉孝（総合研究大学院大学・国立民族学博物館 名誉教授）

田村卓也（比較）『ケニア沿岸部の零細漁業者による水産資源の利用に関する生態人類学的研究——かご漁を事例として』〔文学〕

〔審査委員〕 小野林太郎、鈴木英明、飯田 卓、  
秋道智彌（山梨県立富士山世界遺産センター 所長）、  
中村 亮（福岡大学経済学部 准教授）

## 【論文博士】

内田修一（地域）『都市環境における関係性を巡る実践としての精霊憑依——マリの首都におけるソングイ移民の精霊憑依に関する人類学的研究』[学術]

〔審査委員〕三尾 稔、川瀬 慈、島村一平、  
竹沢尚一郎（総合研究大学院大学・国立民族学博物館 名誉教授）、  
田中正隆（大谷大学文学部社会学科 准教授）、  
岸上伸啓（人間文化研究機構 理事・国立民族学博物館 客員教授）

## ●学生の就職状況

学生の受入を開始した1989年以来、2021年3月末日までに地域文化学専攻・比較文化学専攻を巣立った144名の修了生および退学生のうち、合計74名が常勤の教育研究職に就いた。内訳は、国立大学17名、公立大学7名、私立大学38名、海外等その他の機関6名、歴博1名、民博4名、地球研1名である。

## ●入学者選抜試験

2021年度入学者の選抜試験には、地域文化学専攻2名、比較文化学専攻2名、計4名の志願者があり、地域文化学専攻2名、比較文化学専攻2名、計4名の合格者を第71回教授会において決定し、4名が入学手続きをとった。入学定員（各専攻3名）に対する出願者の倍率は0.6倍（合格者に対する倍率は1.0倍）であった。合格者、「志望研究題目」、（主任指導教員、副指導教員）は以下の通りである。

### 【地域文化学専攻】

築山欣央

「人の移動と地域コミュニティとの関係についての一考察——日系ブラジル人の意識と行動に焦点をあてて」  
（平井京之介、南 真木人）

バトオチル バルジンニヤム  
BATOCHIR BALJINNYAM

「家畜の『交換』に関する文化人類学的研究」  
（島村一平、樫永真佐夫）

### 【比較文化学専攻】

川又幸恵

「バネズエラ都市部におけるリプロダクションと産前・産後ケアから見る出産文化の特性」  
（松尾瑞穂、鈴木 紀）

志川真子

「民俗芸能の復活」  
（福岡正太、笹原亮二）

2021年度入学者も、ここ数年と同様、研究対象である現地での経験を持つ者が多い。出身大学の内訳は、公立2名、私立1名、海外1名で出身大学院の地方別では、関東、近畿、海外となっている。

2021年3月現在、地域文化学専攻14名、比較文化学専攻13名、あわせて27名が在籍しているが、このうち3年次以上には両専攻あわせて17名がいる。これは、教育研究の柱としている長期フィールドワークにそれぞれ出かけているためである。

2020年度は、館内でオープンキャンパス（入試相談会／2000年度から開催）を9月25日に開催した。総研大および民博の概要説明、施設見学、教員との個別面談等が行われた。参加者は17名で関東、中部、近畿、海外からと多岐にわたった。

## ●日本学術振興会特別研究員（DC2）への採用

2020年度は地域文化学専攻 澁谷美和、比較文化学専攻 孫文、古澤瑞希が日本学術振興会特別研究員（DC2）に採用された。

## ●地域文化学専攻・比較文化学専攻教員数（2021年3月現在）

専攻	専攻長	担当教員数
地域文化学専攻	1	25
比較文化学専攻	1	24（基盤機関の長である民博館長を含む）

## ●地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生（2021年3月現在）

専攻	入学定員	現員			計
		1年次	2年次	3年次	
地域文化学専攻	3	3	2	9	14
比較文化学専攻	3	2	3	8	13

## ●年度別学位記授与者数

	地域文化学専攻		比較文化学専攻		計
	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
1991（平成3年）年度			1		1
1992（平成4年）年度					0
1993（平成5年）年度			1	1	2
1994（平成6年）年度	2		1		3
1995（平成7年）年度	2		1		3
1996（平成8年）年度		3			3
1997（平成9年）年度	3		4		7
1998（平成10年）年度	4	2			6
1999（平成11年）年度					0
2000（平成12年）年度	2		2	1	5
2001（平成13年）年度	1	1	2	1	5
2002（平成14年）年度	1	1		2	4
2003（平成15年）年度					0
2004（平成16年）年度	2	3			5
2005（平成17年）年度	4	2		2	8
2006（平成18年）年度	2		3		5
2007（平成19年）年度	2	1	3		6
2008（平成20年）年度	1		1		2
2009（平成21年）年度		1	1	1	3
2010（平成22年）年度	2		2	3	7
2011（平成23年）年度	3		1	1	5
2012（平成24年）年度	1	1	1	1	4
2013（平成25年）年度			1	1	2
2014（平成26年）年度	2	1	2		5
2015（平成27年）年度	3	1			4
2016（平成28年）年度	1	1	1		3
2017（平成29年）年度	1		1		2
2018（平成30年）年度	1				1
2019（平成31・令和元年）年度	1		2		3
2020（令和2年）年度	1	1	2		4
計	42	19	33	14	108